



保護者の学び舎

第8回

ここでは、浜松市の福祉の現状や、身近な制度などについてお伝えしていきます。

ボランティア育成と研修会20年の歴史

■ 取り組みが始まった時代背景

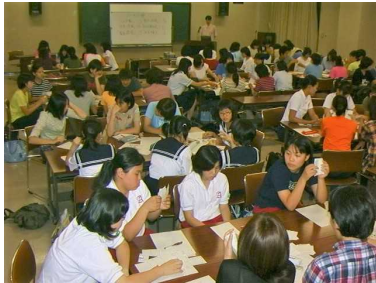
この取り組みを始めたのは、平成12年度。

当時は、浜松育成会も執行部のメンバーが入れ替わったばかりで、会の魅力を伝えようと年代に合わせた活動やイベントに頑張っていました。制度も貧しい時代、子どもの預け先もなく、行事にボランティアは欠かせませんでした。

しかしその確保は難しく、また知的障がい者の特性に対する知識も乏しいため、ボランティアにお願いできる活動内容もなんとなく控えめでした。

当時、旧浜松市の小学校（64校）・中学校（32校）のうち、特別支援学級（現発達支援学級）が全校の4分の1にしか設置されていなかった事、また、自宅とは遠く離れた養護学校（現特別支援学校）への通学などから、実に4分の3の通常級の児童・生徒は、多感な少年期に知的障がいのある私たちの子どものことを知らずに大人になっていくという現実がありました。

ボランティアの需要の高まりと無知・無関心への危機感から、一人でも多くの学生に私たちの子どものことを知ってもらい、また、知的障がい



平成12年度研修会の様子

の特性や接し方を学ぶ機会を提供するため、「青少年福祉ボランティアリーダー育成研修会」がスタートしました。

■ 研修会と登録ボランティア制度

スタートにあたっては、受講生獲得のために多くの工夫を凝らしました。予算もない状況でしたので、参加費をいただくことになりました。

また、浜松市と社会福祉協議会の後援、静岡県青少年指導者認定事業（初級・中級）への申請を行い、研修事業の信頼性を高めました。講師陣には市内福祉施設・各種団体・学校等にご協力をいただき、グレードの高い講義内容を提供していただきました。

さらに、座学に加え、福祉施設や育成会行事で

の実習も必修とし、実践的に学べる環境を整えました。

せっかく研修会を修了した受講生に、活動の場を提供し、継続して育成会活動に関わっていただくために、平成14年度より「登録ボランティア制度」を創設しました。

これにより、毎年の研修会スタッフの確保、各種育成会行事におけるボランティアの確保が容易になりました。また、定期的に交流会も開催し、ボランティア同士の年代を超えた交流の場ともなっています。



根洗学園納涼祭にブース出展

■ 課題と今後の研修会

昨年度までの受講修了生は実に601名にのびります。しかし、受講生の人数は、平成13年度の95名をピークに減り続け、ここ7～8年は20名前後を推移しています。

受講の動機も変化し、最近では高校生のうちから将来の進路として福祉関係、医療関係、特別支援学校教員を目指す学生が多くなっています。

この研修会を始めた動機の一つである、障がいのある子どもは、年の離れた親や学校の先生・施設の職員と一生を過ごすのではなく、彼らと同年代の人たちとともに社会の中で時代を過ごしていくということからも、様々な業種を目指す学生たちに受講してもらいたいと考えています。

しかし、福祉業界も慢性的な人材不足であることは事実です。実際にこの研修会の修了生も、多くの福祉施設に勤務し活躍しています。

これからもこの研修会を継続し、共生社会の実現に向け、また福祉人材開発の一翼を担いながら、一人でも多く私たちの子どもの理解者を増やし続けていきたいと思っています。

（ボランティア育成委員会委員長 水崎 裕久）